

桐蔭高等学校

実施日時	令和元年12月11日(水) 13時10分~14時
参加者	生徒560名(高1、高2)、生徒240名(中学1、2、3年)、教員 高校34名、中学8名 計842名
実施内容	避難所で出来ることは何か。避難所に必要な物質は何か。ハザードマップを確認する。

ねらい

1. 桐蔭中学・高校が避難所に指定されていることから、実際に避難所の運営に関わって、桐蔭高校生(桐蔭中学生)として、運営に協力できることは何かを、具体的に考えさせる。
2. 和歌山市のハザードマップを紹介して、実際に起こりうる自然災害を各自想定して、自分の取る具体的な行動を各自が意識するように啓発する。

主なプログラム

1. パワーポイントによる自然災害(東南海地震)が起きた場面を想定させ、自分自身の取るべき行動を擬態的に各自に考えさせた。
2. 和歌山市が作成したハザードマップを紹介して、自分自身の居住地域の津波想定を各自に確認させた。この時、ハザードマップを完全なものとして利用しないように注意をした。
3. 中学生と高校生が混在する班をつくり、実際に避難所になった場合に、自分たちに出来ることは何かを、和歌山市の避難所管理運営委員会組織図を参照しながら考えさせた。
4. また、体育館および柔道場の2カ所で実施したので、実際に避難所になった場合に、どんなものが必要かを考えさせた。

概要

体育館と柔道場の2カ所に中学生と高校生が混在するようにあらかじめ分けて同じ内容を実施した。

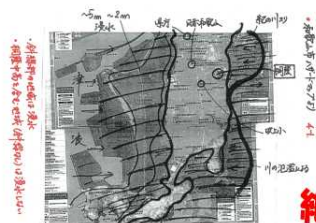
体育館に74班(1班7~8名) 柔道場に40班(1班7~8名)

10分をパワーポイントによるプログラム1番と2番を全体に対して実施し、10分でグループごとに車座に座り、25分間でプログラム3番と4番の協議を、互いの自己紹介も含めて実施した。

各班の記録用紙を提出して終了。教員で処理をしてクラスごとに掲示。

参照図(パワーポイントで用いたもの)

ハザードマップは、あくまでも予測



絶対ではない!

・地震に対する備え

・水に対する備え

⇒最も、自分のいる可能性
の高い場所の順に

⇒災害が起きたときの



状況の予想と行動イメージ

体育館でのグループ競技の様子



クラス掲示した協議結果を集計したもの

12.11キャリア枠の業「災害に備える」

避難所で君たちには何ができるか

～グループワークで出た意見～

物資に関わること

- ・食料の運搬
- ・炊き出しの手伝い
- ・あるもので新しいモノを作る
- ・ものを譲る
- ・食料の在庫確認
- ・必要なモノを聞き取る
- ・校内で使えるものを探す

医療に関わること

- ・救護
- ・周回の体調確認
- ・治療の補助

情報に関わること

- ・掲示板の設置
- ・放送、伝達
- ・情報収集
- ・名簿作成、管理
- ・行方不明者のチラシを作る
- ・災害時伝言ダイヤルの周知
- ・人数確認

設備・環境

- ・ついたての設置
- ・談話室の設置
- ・受付、案内、誘導
- ・避難所の掃除
- ・避難所の巡回警備、防犯対策
- ・周辺の復興作業

人に関わること

- ・子どもたちのお世話、一緒に遊ぶ
- ・レクリエーションを企画する
- ・部活動の発表
- ・話しかける、話し相手になる
- ・高齢者や介護が必要な人の手助け
- ・妊婦さんの手助け
- ・御用聞きになる
- ・避難所内の人探し
- ・前向きな発言を心がける

成果と課題

【成果】自然災害に対する心構えを、改めて意識付けすることが出来た。異学年による協議および体育館や柔道場という場所の設定で、より避難所の場面を具体的に想像させることが出来た。

【課題】協議結果を全体にプレゼンさせる時間が確保できる方が良かった。アルファ米を食べさせる経験があった方が良かった。実際に段ボールによる区切りも取り入れる方が良かった。地域住民を入れた協議の方がより現実的で良かった。総合的に、実施時間が、1時間枠（50分間）で実施したのだが、2時間枠で考えると上記に挙げたものもいくつか取り入れることが出来るので来年度は考えたい。